

平成26年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 平成25年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年

平成26年7月
目黒区立第四中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	54人	42人	92人
実施数	52人	42人	92人
受検率	96.3%	100%	100%

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

平成26年4月15日（火）

Ⅱ 平成25年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

※前年度の授業改善プランの実施状況を検証し、学校全体としての成果と課題について記述する

(1) 成果

英語では、少人数編成による習熟度別授業に加え、英作文指導を重点的に行ったこともあり、調査を実施した2、3年生ですべての観点の正答率が目標値を大きく上回っている。また、国語の「話す・聞く能力」や社会の「社会的事象への関心・意欲・態度」においても、昨年度の授業改善プランを実施した成果が顕著に現れ、正答率が向上した。

その他の教科でも、ほとんどの観点で目標値を上回っており、授業改善の成果が伺える。学校全体での授業改善および授業力向上の取組はもとより、放課後補習や土曜補習の充実を図った成果だと考えられる。

(2) 課題

全学年の理科で、正答率が目標値を下回っている観点が多い。今年度はその改善を目指し、授業をティームティーチングで行い、ICT機器を積極的に活用することで、生徒の興味や関心を強く引きつけるなどの指導の工夫を行い、学力の向上を目指す。

3年生で国語の「書く能力」と社会の「社会的事象についての知識・理解」の正答率が目標値を若干下回った。小テストや課題に繰り返し取り組ませることで、課題の改善を図る。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

※学校全体として取り組む方策について記述する

本校の授業改善に向けた方策

- ・授業力向上と授業改善の検証を行うために、教科部会を定期的に行う。特に定期考査後には、結果の分析を詳細に行い、毎時間の授業に生かす。
- ・授業力向上のために、教員が互いに授業を参観し合い、OJTを推進することで、授業を活性化させる。
- ・数学と英語では、少人数編成の習熟度別授業のさらなる充実を目指し、個に応じた指導の工夫を行う。特に、英語では加配されているALTの活用をさらに推し進める。
- ・国語と理科ではティームティーチングを行い、作文や実験などにきめ細かな指導をすることで、一人一人の学力の向上を図る。
- ・授業の中に生徒が主体となる活動を積極的に取り入れ、生徒の言語能力や思考力、判断力を伸ばす。
- ・「家庭学習ノート」の提出などの方策を用い、家庭学習の習慣化を促し、授業で学習した内容の定着化を図る。
- ・年間10000ページを目標とする読書マラソン活動を推進し、生徒の読書力と知的好奇心を高める。
- ・「校内弁論大会」を全員参加で行い、言語活動の充実と、生徒の表現力の向上、思考力の向上を目指す。
- ・放課後補習と土曜補習では担当者と各教科が連携を密にし、生徒の学力向上に努める。学力の伸び悩みがある生徒には積極的な参加を促し、より効果的な取組となるようにする。

※授業における「指導方法の工夫」「習熟を高めるための手だて」「指導体制」等について、年間を通じて達成状況が確認できるよう具体的に記す。

※指導に生きる評価方法と評価規準等の工夫・改善、教員の授業力向上を図るため校内研修、教育開発の取組等について記述することも考えられる。

目黒四中 第1学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○聞き取る能力 ○言語についての知識・理解・技能 ○説明的文章を読み取る能力 ○意見文を書く課題における白紙解答率	○様々な設定による聞き取り練習を定期的の実施するとともに、聞き取りテストを年間12回実施する。 ○言語事項を重点的に学習する授業を定期的の実施し、敬語を含めた文法事項についての習熟を図るとともに、クイズ・ゲーム等を取り入れて関心・意欲を引き出す。 ○各段落における中心的な内容を把握して全体構成の中で整理するとともに、本文から根拠・理由となる記述を抜き出す課題に取り組ませる。 ○身近な題材を選んで課題を設定するとともに、グループによる話し合いを通して様々な意見に触れてから賛成・反対の立場を決める等、自分の意見をもちやすくする。
社会	○社会的事象への関心・意欲・態度の向上 ○社会的事象への思考・判断・表現	○授業の冒頭で時事ニュースなどの話題を毎時間取り上げる。定期テストでも時事問題を出題し、社会の出来事に対する意識を養う。 ・毎授業、その日の単元名、スケジュールとねらいを明確に提示し、生徒自身が何を努力すればいいか見通しをもって授業を受けられるようにする。 ○個人学習、グループ学習ともに毎時間自分、もしくはグループで意見を考えさせ、発表させる時間を設けることで、自らの意見を形にする習慣をつける。
数学	○日常における数学的な関心・意欲・態度の向上 ○数学的な見方・考え方、知識・理解の向上 ○数学的な技能の向上	○問題が解けることに着目するのではなく、発言や取り組みに重点をおき、「気づき」を大切にする授業を展開していく。 ○ただ解けるということではなく、「どうして」「なぜ」という視点で問題に取り組ませる。グループ活動や生徒自身の解説を多く取り入れて、過程を大切にする授業を展開する。 ○学習した内容を確認するために、単元別テストを行ったり、演習での反復練習をしていく。
理科	○自然事象への関心・意欲・態度の向上 ○植物のはたらきについての理解	○興味関心を高めるために実験・観察の実施や情報機器を活用する。 ・身近な事象を取り入れながら教科書以外の簡易的な実験観察も行っていく。 ・パソコンやプロジェクターなどの情報機器を使用し、画像や動画を見せイメージをもたせ、興味・関心を引き出せるようにする。 ○実験や観察の方法や結果を再確認し、問題集やワークシートを繰り返し行い、知識・理解の定着を図る。
英語		○音声を重視し、英語の発音、リスニング、音読で聞き取りの力をつける。 ○スピーチやペアワークなどの発表を通して、コミュニケーション能力を育成する。 ○スタンプカードを使い、教科書の音読、暗唱を徹底する。 ○練習ノートにより、書くことと家庭学習を定着させる。

目黒四中 第2学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○書く力の習得 ○漢字の読み書き	○短作文指導の回数を増やし、「書くこと」への苦手意識をなくすようにする。また、書く際に題材をいろいろな視点からとらえ、表現が豊かになるように指導する。誤答が目立った新聞記事リード文の作成については、段落の要点をまとめる学習を繰り返し行うことで、能力の向上を目指す。 ○現在も行っている週に一度の漢字小テストを継続する。漢字の学習量が全体的に少ないので、授業の開始3分程度を漢字学習の時間に充てる。
社会	○社会的事象への関心・意欲・態度の向上 ○社会的事象への知識・理解 ○社会的事象への思考・判断・表現 ○授業規律	○授業の冒頭で時事ニュースなどの話題を毎時間取り上げる。定期テストでも時事問題を出題し、社会の出来事に対する意識を養う。 ○小テストを定期的に実施し、単元を細かく振り返らせることで、知識面での学習を促す。 ○個人学習、グループ学習ともに毎時間自分、もしくはグループで意見を考えさせ、発表させる時間を設けることで、自らの意見を形にする習慣をつける。 ○毎単元ノートに感想を書かせることにより、板書を単純に写す授業ではなく、思考を深められるような場面を設定する。 ○発言の仕方、意見のまとめ方など自己中心的にならないように指導し、全員が安心して授業を受けられるようにする。
数学	○日常における数学的な関心・意欲・態度の向上 ○数学的な見方・考え方、知識・理解の向上 ○数学的な技能の向上	○数学を苦手とする生徒に興味・関心をもたせるために、導入を工夫する。ただ解ければ良いという授業ではなく、生徒全員が参加できる授業を展開する。 ○ただ解けるということではなく、「どうして」「なぜ」という視点で問題に取り組ませる。グループ活動や生徒自身の解説を多く取り入れて、過程を大切にする授業を展開する。 ○学習した内容を確認するために、単元別テストを行ったり、演習での反復練習をしたりする。また、毎回の授業で計算の確認をする。
理科	○観察・実験の技能 ○光と音の性質 ○記述問題	○観察・実験を行う際に、方法やその実験の注意点をしっかり覚えるために、黙読や互いに説明しあう時間をつくることで、手順などがより理解できるように工夫する。 ○覚えるだけでなく、目・耳・肌で感じることを大切にし、簡単な内容でも生徒が実験することで、記憶に残るような体験を増やしていく。 ○記述問題慣れしていないので、今後多く経験させる。
英語	○語彙に関する知識・理解の習得。 ○3文以上の英作文を書く力の習得。	○語彙の知識・理解力をあげるために、毎授業で辞書を使った指導を増やす。又、自宅学習でも辞書を使う内容の宿題を出す。 ○音読ができることで「書く」こともできるようになるので、引き続き音読指導と共に「書く」指導も増やしていく。 ○3文以上の英作文を様々なテーマで書く練習を増やす。 ・授業やテストで実施し、添削・助言する。

目黒四中 第3学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○基礎分野の、書くことの領域 ○漢字の読み書き ○説明的文章の読み取り	○書くことは作文・意見文・小論文の課題を單元ごとに取り入れて書く演習を行い、苦手意識をもたないようにする。 ○漢字の小テストを継続して行い、また、広い範囲でも対応できるよう、常用漢字などのプリント学習等を通して行う。 ○説明的文章の読解力を上げるため、長文を読んで段落ごとの内容をつかむ演習を繰り返し行う。
社会	○社会的事象への関心・意欲・態度の向上 ○社会的事象への知識・理解 ○社会的事象への思考・判断・表現	○毎時間、3分間スピーチを実施し、表現力を養うと同時に、社会の出来事やニュースに感心をもち、他人のスピーチを聞いて自分の意見と比較する能力を養う。 ○単元毎の小テストを計画的に実施し、復習を中心とした家庭学習と振り返り学習を定着させる。 ○授業で使うサブノートで、なぜ？どうして？よく考えてという設問を増やし、生徒が主体的に考える授業を実践する。
数学	○数学的な見方・考え方 ○数学的な技能以外の領域	○少人数習熟度別授業で、各コース共通して、基礎基本となる計算問題を徹底して行う。「ゆっくりコース」は反復練習で計算技能を定着させる。「基本コース」は基礎だけでなく、応用の計算問題も扱う。 ○「式の計算や図形の証明」では、仮定と結論を明確にさせ、証明の筋道を立てさせる指導を行う。そして、証明を行い、結論に導いていく指導を行う。
理科	○自然事象への関心・意欲・態度の向上 ○自然事象への思考力・表現の向上	○ICT機器やデジタル教材を積極的に活用し、生徒の興味関心を一層惹きつける工夫を行うことで、思考力・表現力の向上に生かす。 ○実験の考察の際にグループ討議をしたり、問題の演習の数を増やしたりして、自然現象をよく理解しながら思考力を高めるよう指導する。
英語	○語形・語法の理解（助動詞・過去進行形） ○英文を正しい語順で書くこと	○音読を重視して、基本的な英文の構造を覚えるようにする。 ○基礎的な文法のドリルを行い、英語の文法や語順の定着を図る。 ○文章を書く練習を増やし、語形・語法の理解を深める。 ○より多くの英文を読むことにより、英語の語順を理解し、正しい語順で書くことができるように指導する。 ○課題に応じた英文をできるだけ多く書く練習を取り入れ、正しい語順で英文を書くことに慣れる。